代数学幾何学演習 II (小テスト 001b の解答)

栗野 俊一

2003年6月20日(Ver 0.01)

1 定義の確認

次の問いに答えなさい。

(ベクトル空間) 複素数全体の集合 C が、実数全体の集合 R 上の「ベクトル空間」であることを示せ。

[解答例] [Memo] 本来は、ベクトル和とスカラー倍を指定しないかぎり、この問題は解けないのだが、ここでは、 次のように定義されているものとして解く。

演算を、次のように定めればよい。

(ベクトル和) 複素数の和: すなわち、 $z_1(=x_1+y_1i), z_2(=x_2+y_2i)\in \mathbf{C}$ に対して、 $z_1+z_2=z3=(x_1+y_1)+(x_2+y_2)i$ とする

(スカラー倍)実数と複素数の積: すなわち、 $z(=x+yi)\in \mathbf{C}, a\in R$ に対して、az=(ax)+(ay)i とするベクトル (線型空間) の定義に従い、8 つの条件をすべてチェックする。

(1) (x+y)+z=x+(y+z) (結合律)

左辺 =
$$(x+y)+z$$

= $((x_1+x_2i)+(y_1+y_2i))+(z_1+z_2i)$
= $((x_1+y_1)+(x_2+y_2)i)+(z_1+z_2i)$
= $((x_1+y_1)+z_1)+((x_2+y_2)+z_2)i$
= $(x_1+(y_1+z_1))+(x_2+(y_2+z_2))i$
= $(x_1+x_2i)+((y_1+z_1)+(y_2+z_2)i)$
= $x+(y+z)$
= 右辺

(2) x + y = y + x (可換律)

左辺
$$= x + y$$

$$= (x_1 + x_2i) + (y_1 + y_2i)$$

$$= (x_1 + y_1) + (x_2 + y_2)i$$

$$= (y_1 + x_1) + (y_2 + x_2)i$$

$$= (y_1 + y_2i) + (x_1 + x_2i)$$

$$= y + y$$

$$= 右辺$$

(3) $\exists ! \ 0 \text{ s.t. } [x+0=0+x=x(\forall x\in V)]$ (単位元の存在)

0=0+0i を考えれば、 $\forall x \in \mathbf{C}[0+x=x+0=x]$ であることはすぐわかる。

また、一意性に関しては、もし、ある要素 0' が、 $\forall x \in \mathbf{C}[0'+x=x+0'=x]$ を満すと仮定すれば、0=0+0'=0' となるので、0=0' つまり、一意であることがわかる。

(4) $\forall x \in V \exists ! x' (=-x) \text{s.t.} [x+x'=x'+x=0]$ (逆元の存在) $x = x_1 + x_2 i \text{ に対して、} x' = -x = (-x_1) + (-x_2) i \text{ とすれば、} x+x' = (x_1+x_2i) + ((-x_1)+(-x_2)i) = (x_1+(-x_1)+((x_2)+(-x_2))i) = 0 + 0i = 0 \text{ となる。}$

一意性に関しては x'' が、逆元の性質を満すとしたとき x'=x'+0=x'+(x+x'')=(x'+x)+x''=0+x''=x'' なので、成立する。

(5) (a+b)x = ax + bx (分配律)

左辺 =
$$(a+b)x$$

= $(a+b)(x_1+x_2i)$
= $((a+b)x_1) + ((a+b)x_2)i$
= $((ax_1) + (bx_1)) + ((ax_2) + (bx_2))i$
= $((ax_1) + (ax_2)i) + ((bx_1) + (bx_2)i)$
= $a(x_1 + x_2i) + b(x_1 + x_2i)$
= $ax + by$
= 右辺

(6) a(x+y) = ax + ay (分配律)

左辺 =
$$a(x+y)$$

= $a((x_1+x_2i)+(y_1+y_2i)$
= $a((x_1+y_1)+(x_2+y_2)i)$
= $a(x_1+y_1)+a(x_2+y_2)i$
= $((ax_1)+(ay_1))+((ax_2)+(ay_2))i$

$$= ((ax_1) + (ax_2)i) + ((ay_1) + (ay_2)i)$$

$$= a(x_1 + x_2i) + a(y_1 + y_2i)$$

$$= ax + ay$$

$$= 右辺$$

(7) (ab)x = a(bx) (結合律)

左辺 =
$$(ab)x$$

= $(ab)(x_1 + x_2i)$
= $((ab)x_1) + ((ab)x_2)i$
= $(a(bx_1)) + (a(bx_2))i$
= $a((bx_1)) + (bx_2)i)$
= $a(b(x_1 + x_2i))$
= $a(bx)$
= 右辺

(8)
$$1x = x$$

 $1x = 1(x_1 + x_2i) = (1x_1) + (1x_2)i = x_1 + x_2i = x$

(同型)複素数全体の集合 ${f C}$ は、実数要素の二次元ベクトル空間 ${f R}^2=\{\left(egin{array}{c}x\\y\end{array}
ight)|x,y\in{f R}\}$ と「同型」であることを 示せ。

[解答例] [Memo] 同型を示すには、同型写像の存在を示す必要がある。この場合は、具体的な写像 1 を示し、そ れが同型写像になっていることを示せばよい。

 \mathbf{R}^2 から \mathbf{C} への写像 $\phi(\left(egin{array}{c}x\\y\\y\\y\end{array}
ight) = x+yi$ を考える。そして、この ϕ が同型写像になっていることを示す。

同型性 一対一かつ、上への写像であることを示す。

型性 一対一がり、上への与像であることを示す。一対一(
$$\phi(z_1)=\phi(z_2)$$
 o $z_1=z_2$) $z_1=\begin{pmatrix}x_1\\y_1\end{pmatrix},z_2=\begin{pmatrix}x_2\\y_2\end{pmatrix}$ する。すると、 $\phi(z_1)=x_1+y_1i,\phi(z_2)=x_2+y_2i$ となる。よって、

$$\phi(z_1) = \phi(z_2) \quad \Leftrightarrow \quad (x_1 + y_1 i) = (x_2 + y_2 i)$$

$$\Leftrightarrow \quad x_1 = y_1 \land x_2 = y_2$$

$$\Leftrightarrow \quad \begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \end{pmatrix}$$

$$\Leftrightarrow \quad z_1 = z_2$$

¹これを考えることが本質なのだが、まあ、慣れると、何をとればよいかわかるようになる..

上へ(
$$\forall y \in \mathbf{C} \exists x \in \mathbf{R}^2 \text{s.t.} \phi(x) = y$$
)
$$y = y_1 + y_2 i \text{ に対して、} x = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} \text{ とずれば、} \phi(x) = \phi(\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}) = y_1 + y_2 i = y$$

線型性 線型関数であることを示す。

ベクトル和 (
$$\phi(x+y)=\phi(x)+\phi(y)$$
) $x=\left(\begin{array}{c}x_1\\x_2\end{array}\right), y=\left(\begin{array}{c}y_1\\y_2\end{array}\right)$ とすると、

左辺 =
$$\phi(x+y)$$

= $\phi(\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix})$
= $\phi(\begin{pmatrix} x_1+y_1 \\ x_2+y_2 \end{pmatrix})$
= $(x_1+y_1) + (x_2+y_2)i$
= $(x_1+x_2i) + (y_1+y_2i)$
= $(x_1+x_2i) + (y_1+y_2i)$
= $\phi(\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}) + \phi(\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix})$
= $\phi(x) + \phi(y)$
= 右辺

スカラー積 (
$$\phi(cx)=c\phi(x)$$
)
$$x=\begin{pmatrix}x_1\\x_2\end{pmatrix}$$
とすると、

左辺 =
$$\phi(cx)$$

= $\phi(c\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix})$
= $\phi(\begin{pmatrix} cx_1 \\ cx_2 \end{pmatrix})$
= $(cx_1) + (cx_2)i$
= $c(x_1 + x_2i)$
= $c\phi(\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix})$
= $c\phi(x)$
= $\phi(x)$

以上に、より ϕ は、 ${f R}^2$ から ${f C}$ への同型写像になる。 ${f R}^2$ と ${f C}$ の間に同型写像が存在するので、この二つ

は、同型。

(基底) 二つのベクトル
$$v_1=\begin{pmatrix}1\\1\end{pmatrix}, v_2=\begin{pmatrix}-1\\2\end{pmatrix}$$
 は、実数要素の二次元ベクトル空間 $\mathbf{R}^2=\{\begin{pmatrix}x\\y\end{pmatrix}|x,y\in\mathbf{R}\}$ の「基底」になっていることを示せ。

[解答例] 「基底」の定義の条件をそれぞえチェックすればよい。

線型独立性 ($\sum_{i=1}^n c_i v_i = 0 \rightarrow c_i = 0 (i=1..n)$)

$$c_1v_1 + c_2v_2 = 0 \Leftrightarrow c_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \end{pmatrix} = 0$$

$$\Leftrightarrow \begin{cases} c_1 - c_2 = 0 \\ c_1 + 2c_2 = 0 \end{cases}$$

$$\Leftrightarrow \begin{cases} c_1 = 0 \\ c_2 = 0 \end{cases}$$

表現性 ($\forall x in V \exists c_i \in L \text{s.t.} x = \sum_{i=1}^n c_i v_i$)

実は、
$$\frac{1}{3}(2v_1-v_2)=\left(\begin{array}{c}1\\0\end{array}\right),\,\frac{1}{3}(v_1+v_2)=\left(\begin{array}{c}0\\1\end{array}\right)$$
 となるので、
$$x=\left(\begin{array}{c}x_1\\x_2\end{array}\right)$$

$$= x_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + x_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$
$$= x_1 \frac{1}{3} (2v_1 - v_2) + x_2 \frac{1}{3} (v_1 + v_2)$$
$$= (\frac{2}{3}x_1 + \frac{1}{3}x_2)v_1 + (-\frac{1}{3}x_1 + \frac{1}{3}x_2)v_2$$

なので、任意のxが、 v_1 と v_2 の線型和で表現できた。

(線型変換) 実数要素の三次元ベクトル空間
$$\mathbf{R}^3=\{\left(egin{array}{c}x\\y\\z\end{array}
ight)|x,y,z\in\mathbf{R}\}$$
 上の関数 $T(\left(egin{array}{c}x\\y\\z\end{array}
ight)=\left(egin{array}{c}y-x\\z\\0\end{array}
ight)$ に関して、

次の問いに答よ。

関数 T(▽) が「線型変換」であることを示せ。

[解答例] ベクトル和

$$T(\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \\ z_1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \\ z_2 \end{pmatrix}) = T(\begin{pmatrix} x_1 + x_2 \\ y_1 + y_2 \\ z_1 + z_2 \end{pmatrix})$$

$$= \begin{pmatrix} (y_1 + y_2) - (x_1 + x_2) \\ z_1 + z_2 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} (y_1 - x_1) + (y_2 - x_2) \\ z_1 + z_2 \\ 0 + 0 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} y_1 - x_1 \\ z_1 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} y_2 - x_2 \\ z_2 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$= T(\begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \\ z_1 \end{pmatrix}) + T(\begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \\ z_2 \end{pmatrix})$$

スカラー積

$$T(c\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}) = T(\begin{pmatrix} cx \\ cy \\ cz \end{pmatrix})$$

$$= \begin{pmatrix} cy - cx \\ cz \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} c(y - x) \\ c(z) \\ c(0) \end{pmatrix}$$

$$= c\begin{pmatrix} y - x \\ z \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$= cT(\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix})$$

線型変換 T(▽) の「Rank」を求めよ。

[解答例] 線型変換 $T(\overrightarrow{v})$ の 「 Rank 」は、 $\dim T(V)$ で定義されているので、 $W=\{y=T(x)|x\in V\}$ の次元を考える。

仮定より、
$$W=\{\left(egin{array}{c} y-x \\ z \\ 0 \end{array}
ight)\}$$
 なので、これは、二次元である 2 。

• 線型空間
$$\mathbf{R}^3$$
 の基底を、普通に $(<\overrightarrow{e_1}=\left(egin{array}{c}1\\0\\0\end{array}
ight),\overrightarrow{e_2}=\left(egin{array}{c}0\\1\\0\end{array}
ight),\overrightarrow{e_3}=\left(egin{array}{c}0\\0\\1\end{array}
ight)>;\phi(\overrightarrow{v})=\overrightarrow{v})$ としたときの、

「線型変換 T に対応する行列」を求めよ

[解答例]
$$T(\overrightarrow{e_1}) = T(\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}) = \begin{pmatrix} 0 - 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = -\overrightarrow{e_1} = (-1)\overrightarrow{e_1} + (0)\overrightarrow{e_2} + (0)\overrightarrow{e_3}$$

$$T(\overrightarrow{e_2}) = T(\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}) = \begin{pmatrix} 1 - 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = \overrightarrow{e_1} = (1)\overrightarrow{e_1} + (0)\overrightarrow{e_2} + (0)\overrightarrow{e_3}$$

$$T(\overrightarrow{e_3}) = T(\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}) = \begin{pmatrix} 0 - 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \overrightarrow{e_2} = (0)\overrightarrow{e_1} + (1)\overrightarrow{e_2} + (0)\overrightarrow{e_3}$$
 より、(係数を縦にならべて...)

$$A = \left(\begin{array}{rrr} -1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{array} \right)$$

2 連立方程式

次の連立方程式を解け。

$$\begin{cases} x + y + z - 2w = 1 \\ 2x - y + z - w = 3 \\ -x - 2y - z - w = -2 \end{cases}$$

3 行列式

以下の行列式の値を求めよ。

 $^{^2}$ これは、本当は、厳密にチェックする必要がある。具体てきには、W の基底を求め、その要素数を数える。

$$\begin{vmatrix}
0 & 2 & 0 & -2 \\
-1 & 1 & 3 & 0 \\
0 & 3 & -2 & -1 \\
2 & 1 & -1 & 0
\end{vmatrix}$$

4 基底

次の漸化式で表現される数列全体からなる線型空間 V の基底を求めよ。

$$V = \{\{x_n\} | x_{n+2} + x_{n+1} - 6x_n = 0\}$$

5 正規直交基底

以下の R^3 での基底をシュミットの直交化法を適用して、直交化せよ。

$$\left(\begin{array}{c}2\\1\\2\end{array}\right), \left(\begin{array}{c}-1\\0\\1\end{array}\right), \left(\begin{array}{c}1\\2\\-3\end{array}\right)$$